

平成30年度第1回都島区区政会議会議録

1. 日時 平成30年10月10日（水）午後7時～午後8時40分

2. 場所 都島区役所 3階会議室

3. 出席者

（区政会議委員）

玉川委員・田中委員・田矢委員・小田切委員・辻上委員・江川委員・日野委員

（市会議員）

井戸議員

（都島区役所）

林田区長・嶋村副区長・三井こども教育担当課長・吉田こども教育担当課長代理・西岡政策企画担当課長

4. 議題

(1) 30年度事業の進捗状況について

(2) 31年度事業の方向性について

5. 会議次第

(1) 開会（林田区長挨拶）

(2) 議事

【吉田課長代理】

本日は、委員の皆様にはお忙しい中ご出席賜りまして、まことにありがとうございます。

これより平成30年度都島区区政会議第1回教育部会を始めさせていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます保健福祉課こども教育担当課長代理の吉田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、初めに、区長の林田からご挨拶させていただきます。

区長、よろしくお願いいたします。

【林田区長】

こんばんは。

今年度第1回目の教育部会ということでお集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日につきましては、30年度、今年度の事業について、昨年度と若干変えて取り組んでいる事業もござ

います。そういった事業について、途中経過もございますけれども、ご報告申しあげて、また来年度に向けての方向性、改善点についてもご議論いただけたらと思っております。

それと、これは教育部会（に關係する話）ではないかもしれませんが、この間、地震、台風ということで、本当に地域の皆様にご協力いただきながら対応してきました。特に避難所運営ということで言えば、小学校を使って、30日には、9小学校全てで臨時の避難所を開設させていただいて運営したと。都島区にとっても初めてのことでございます。地域の皆さんにご協力いただいたことに感謝申しあげるとともに、こういった防災についても、学校の運営等も、学校を休校しますかということについても、この間で早目にそういった情報を発信するというのも今回はいたしておりますけれども、そういったことも含めて改善、またブロック塀でありますとか、通学路の安全とかいうことも引き続く課題でございますので、そういったものも取り組んでまいりたいと思っております。

いずれにしても、本日、事業のご議論について、忌憚のないご意見をよろしくお願いを申しあげまして、ご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いたします。

【吉田課長代理】

ここで、委員の皆様にご会議の進行につきましてお願いがございます。議事録作成のため、事務局では会議の様子を録音、写真撮影させていただいております。また、本日の会議はインターネット配信を行っております。以上、ご了承賜りますようお願いいたします。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。皆様には、本日の資料といたしまして、A4縦1枚の次第と、同じくA4縦1枚の座席表を机の上に配付しております。また資料1、資料2につきましては、事前にお送りしたとおりでございます。

以上が本日の資料でございます。そろっておられますでしょうか。お持ちでない方がいらっしゃいましたら、挙手をお願いいたします。

それでは、本日ご出席の委員の皆様をご紹介させていただきます。

桜宮地域活動協議会、玉川允敏様。

【玉川委員】

どうも。

【吉田課長代理】

西都島地域活動協議会、田中智基様。

【田中議長】

お願いたします。

【吉田課長代理】

内代地域活動協議会、田矢泰孝様。

【田矢委員】

こんばんは。よろしくお願いたします。

【吉田課長代理】

淀川地域活動協議会、小田切文二郎様。

【小田切委員】

小田切です。よろしくお願いします。

【吉田課長代理】

一般公募の江川和宏様。

【江川副議長】

よろしくお願いします。

【吉田課長代理】

一般公募の日野るり子様。

【日野委員】

よろしくお願いします。

【吉田課長代理】

子育て支援ネットワーク会議の辻上祥代様。

【辻上委員】

こんばんは。よろしくお願いします。

【吉田課長代理】

塚田委員と東谷委員につきましては、本日はご欠席されております。

続きまして、本日もご出席いただいております議員の皆様をご紹介させていただきます。

大阪市会より井戸議員でございます。

【井戸議員】

こんばんは。よろしくお願いします。

【吉田課長代理】

それでは、これより議事進行につきましては、田中議長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【田中議長】

改めまして、それでは議題に早速入っていきたいと思います。よろしくご議論のほど、お願いいたします。

それでは、まず議題（1）平成30年度事業の進捗状況について、事務局からご説明をよろしくお願いします。

【三井課長】

こども教育担当課長の三井でございます。

私から、今年度事業につきまして説明させていただきたいと思います。失礼して、座らせていただきます。

資料1に沿いまして、簡単にご説明させていただければと思います。

30年度事業の進捗状況につきまして、まず、区まちづくり推進費（区役所予算）についてですけれども、まずはグローバル人材育成事業、1,494,000円ですけれども、英語体験活動（小学生向け）の「English Time

with Friends!」。

内容としましては、ネイティブ講師や留学生と交流しながら、楽しく英語体験。挨拶や自己紹介などの基本的な英語表現を中心に、英語で簡単な質問ができる力を身につける、またはゲームなどを取り入れて、楽しみながら英語に触れるとともに、英語だけでなく、世界の言語やじゃんけんなど、多文化に触れる機会も提供するというので、8月25日、先日実施いたしまして、2時から5時までの間、募集定員は80名ということで募集したんですけれども、初回であったということと、あと市全体のイベントも重なったせいかもしれないんですけれども、30名という参加になりました。

中学生向けのほうは、英対話講座として、「Speak English and Discover the World!」ということでやっております、こちらは、各回のテーマに沿って、基本的な単語・表現の学習、実践・応用練習、異文化紹介の3つの部分で構成いたしまして、楽しみながら英語に触れることができるように、ゲームやロールプレイなども取り入れて、最終回ではフィリピンのアンジェリカム・カレッジ附属中学校とWeb交流を行うという予定にしております。

第1回目が9月15日、土曜日、こちら2時から5時で実施しまして、参加者は12名ということになっております。

その下に写真を3点載せておりますけれども、左からネイティブ講師による進行ということで、こういった形でグループのような形になって指導したりとか、真ん中の写真の楽しみながら英語に触れるということで、立ち歩いて、これはお互い、挨拶をしているところなんですけれども、講師2名で、サポートに入っている留学生が七、八名いるんですけれども、その留学生がみんな母国が違う、かなりいろんな国の出身者がいまして、そういった方々から、それぞれの国の挨拶だったり、文化についてもご紹介いただくという形になっております。

あと、右側には留学生とのグループワークということで、全体の講師による進行と並行して、小さなグループで留学生が少ない人数を見て、一緒に話しながら、ゲームをしながら、楽しみながら進行していくという形でございます。

今後の予定としましては、下に書いておりますような中学生向け、これは先日あったところなんですけれども、10月6日、土曜日、そこでは食文化をテーマにやっております、ピラも学校を中心にまいてるんですけれども、野菜・果物とか、味わいに関する単語ですとか、あと、レストランでの注文の表現を覚えるということで、各国での特色ある食文化について、各留学生から紹介いただいたりして、いろんな国の多様な文化があるということに触れてもらうプログラムでした。

3回目、4回目、5回目とそれぞれありまして、世界の子どもの一日、各国でやはりいろんな生活がありますので、そういったところを学習しながら、最終的にはフィリピンの中学生と交流ということで、Web交流でも、これまでのいろんな各国の文化、学んだことを基礎にしまして、いろいろやりとりをするというプログラムになっております。

あと、小学生向けにつきましては、12月15日にもう一度、異文化理解のためのイベントを実施する予定でございます。

裏面にいきまして、次のページ、小学生やる気アップ学習支援事業ですけれども、こちら例年の開催

になっておりますけれども、予算が320万円余りということで、夏季休業期間中に小学校の中学年、三、四年生を対象に、大学生等が集中的に指導に当たる学習会を開催しております。子どもたちの基礎学力を向上させて、中学年から発生すると言われる、学習の最初のつまずきの解消を図るものでございます。9小学校ありますので、期間、5日間の通しを3回、3区分つくりまして、各3校ずつ実施したところです。

参加者は253名ございまして、後の資料にも出てくるんですけども、昨年度の実施のアンケートの結果としましては、受けて意欲向上したというアンケート結果が8割近くに上っているところでございます。

次のSSW（スクールソーシャルワーカー）による子ども相談事業ですけれども、こちらも350万円弱の予算をとっておりまして、区内の小中学校を巡回して、子育て支援の関係で、学校での問題ですとか、あと、その子特有の家庭的・教育的要因による課題、そういったことを学校、保護者、関係機関とも連携しながら対応するというところでございます。

件数としましては、対応件数26件と書いておりますけれども、これはスクールソーシャルワーカーが中心となって対応した件数でございまして、サポートに入ったりとか、子育て支援室内、また学校等と情報連携したりする件というのは、この9月末でも100件程度はございます。

今年度の目標としましては、その中心となって取り組んだ件数については、60件以上という目標を立ててございます。

続きまして、(2) 校長経営戦略支援予算（区担当教育次長枠）ですけれども、これもこの間継続しております民間事業者を活用した課外授業、80万円余りですけれども、今年度は「みやこ塾」という名称で5中学校を対象に開催しておりまして、区内の中学生を対象に基礎学力の向上、子どもの習熟に応じた学力向上、学習習慣の形成を図るというものでございます。

こちら、募集枠150名のうち77名の参加ということで、参加率は5割ちょっととなっているところです。

また、参加者の中で、このプログラムについては、バウチャーが利用できるというのも一つの魅力かなと考えているんですけども、利用率は約6割となっております。

次に、小学生運動能力向上支援事業、120万円余りですけれども、今年度スポーツトレーナー、Asobility（アソビリティ）という会社をされている方なんですけれども、トレーナーとして一定の経験を積まれていまして、そういった方に各校6日間行っていただいて、友渕小学校は生徒数も多いのですので、12日としておりますけれども、各校で基礎的な運動の指導でしたり、体の使い方、そういったところを中心に指導をいただいているところです。

また、派遣回数は小学校が22回となっておりますけれども、この10月以降で派遣、学校に行くという調整もありますので、年度を通して全小学校60回、実施していく予定でございます。

あと、桜宮高校と区内小学校の交流事業ということで、桜宮高校の体育科の先生が小学校で指導していただけるという件ですけれども、こちらも希望のありました5小学校で指導は予定されておりまして、直近で言いますと、都島小学校、10月5日に陸上の関係で指導を実施していただいているところでございます。ほかの学校も11月とか、そういった時期でもともと希望もされていまして、サッカーですとか、バスケットボール、バレーボールなどの種目で今後調整していったら、実施していただける予定でございます。

あと、その他といたしまして、中高連携の部分ですね。中学は、出前授業を区内の各高校から来ていただくという取組で、高校は、それぞれ中学生を中心にしまして、地域に貢献するような活動とか、そういった活動をこれまでよりもさらに拡充していただくような形で取組を活性化していければということで、7月に中学・高校の校長先生に集まっていたきまして、協議もさせていただいたところです。

中学につきましては、こちらに実施の結果とか、31年度の予定も書いているんですけども、これまで取組が区内の高校とはなかったところも、来年度に向けて計画いただいているところですし、今年度はちょっと日程が合わなかったところも、来年度に向けて調整に入らせていただいているところです。

あと、下の米印のところにも書いていますけれども、体験授業、説明会については、これまでの取組を継続していただけるということですし、あと、部活の交流につきましては、人的なつながりというのが大きく影響しているようなんですけども、今後、区内中高で交流を推進して、連携によるイベントもしていきたいと考えております。

次に、各高等学校による取組の拡充案ということで、この間、いろんな取組を各高校でもやっていたところなんですけれども、桜宮高校で、部活の指針というのを全市的にも策定されるようなんですけども、それを受けて中学校部活顧問への指導も検討いただいているところです。11月10日の桜フェスティバルでも中学生参加メニューというのを検討されるということです。

東高校につきましては、区民まつりのステージでもジャグリング部に出させていただいたりとか、あと、毎年やっていただけてますけれども、大川地引網で微生物の観察会と、そういった地域貢献もやっていただけるということです。

都島工業につきましても、つよい橋（ブリッジ）の模型づくりをずっとやっていただいているんですけども、それ以外にも夏休みものづくり教室を検討させていただいたり、都島第二工業高校も、中学校のICT・アクティブラーニング授業の見学ですとか、区内に限定はされていないんですけども、中学校の教員の方に学校の授業を見学に来ていただいて、学校のPRをするなどの新しい取組をされているところがございます。

ざっと申しあげましたけれども、30年度、今年度の事業の状況につきましては以上でございます。

【田中議長】

ありがとうございました。

そうしましたら、今の進捗状況につきまして、ご質問、ご意見等がございましたら、挙手の上、お願いします。

【玉川委員】

ちょっとすみません、グローバル人材育成事業というのは、非常にいい事業だろうと思うんですけども、参加者が定員80名に対して30名、中学校も50名に対して12名というのは、何が問題なんでしょうか。もっと逆に、こんな積極的に出してもらったほうが、せつかくやりはるのに。時期が悪いのか、PRが悪いのか。要は小学校、中学校が全然そういう認識がないのか、そこら辺、何が原因なんでしょう。

【三井課長】

小学校は、特に8月25日につきましては、全市的にイングリッシュ・デイという取組をされているイベ

ントがあるようなんですけれども、そちらが開催されていて、同じ日になったというのも影響したのかなと思っております。

他区でもう3年ぐらい（類似の事業を）やられているところがあるんですけれども、そちらは50名定員で、その枠を超えるぐらいの申し込みもあるということです。日程と、PRも小学校を通じて全児童にPRできるような、それを促進していきたいなと思っております。

あと中学生向けのほう、こちらも中学校経由とか、その辺も一定アピールしてきたつもりではあるんですけれども、こちらは12名というの、余りにも少ないという部分がありますので、この辺につきましては、ちょっとプログラムのやり方も考え直さないといけないかなと思っております。

【玉川委員】

これ、場所はどこでやったんですか。

【三井課長】

区役所の会議室。

【玉川委員】

両方とも。

【三井課長】

そうです。なので、中学生は他区でもかなり（参加者が）少ない、数人ぐらいしか参加いただけないとか、そういう話も聞きますので、やはり各学校で開催させていただくとか、場所についても、やり方についても考えないといけないかなと思ってございます。

【辻上委員】

今ので、もう一ついいですか。

【田中議長】

はい。

【辻上委員】

今の中学生と小学生のグローバル人材なんですけれども、PRが悪かったなとおっしゃったんですが、今、中学生をお持ちの保護者の方が2名と、小学生をお持ちの保護者の方が1名、この場にいらっしゃるのでお聞きしたいんですが、こういうことがあったってご存じでしたか。

【田中議長】

すみません、もちろん知っていますが、ごめんなさい、個人的には魅力がありません。行けて、行ったほうがいいよという、親として思えなかった。日程うんぬんというの、確かにあるかと思えます。うちの子どもに関しては、部活動とかがあるので、どうしてもなかなかというのがあります。でも、当然、先ほどもおっしゃられていたけれども、題材としては非常に有意義なものであると思っています。英語という部分に関しましては、もう絶対必須やと思っています。仕事をしている中でも、私自身がしゃべれたら、もっと楽やったのになというの、痛感しています。子どもの時代になれば、もうそんなものは当たり前になってくるぐらいの勢いなので、いかにそこに興味を持たせられるか。先ほどありましたけれども、会場も区役所や子どもらは結構、区役所というの、場所としてとっつきにくいかなというのがあります。

だから、もう少し場の提供、それこそそういった場をうまく民間と協力できるのであれば、英会話教室でも、どちらかといえば低学年向けの会場みたいなもの、会場というか教室みたいなところを使ってとか、何かそういったものもあったほうがいいのかなと、一保護者としては、そんなふうに思います。

【三井課長】

ありがとうございます。参考にさせていただきます。

【田中議長】

ちなみに中学校の保護者としてです。

【辻上委員】

小学校の保護者の方に聞いてもいいですか。

【江川副議長】

僕自身は実は知らなかったんですけども、告知があれば行かそうと思っていたんですけども、どこでどういうふうに、小学校に、全生徒に配付したんですか。それとも学校にビラを張っているぐらいの話ですか。

【三井課長】

小学校に、担任の先生からクラスで配っていただくようお願いしていたつもりではあったんですけども。

【江川副議長】

かなりの数を小学校ごとに渡していたという感じですか。

【三井課長】

そうですね。

【江川副議長】

それやったら、もしも12月のときのやつ、チラシがあんのやったら、私、今、子ども食堂を3つ運営してるし、居場所もつくっているんで、そこで配ったら、多分10人、20人は増えると思うんですよ。こういうのに興味がある人は結構いるんで、中学生になったら、多分忙しくなったりとか、レベルが変わってくるんですけども、小学生は今、学校でもちょっとした英語をやっているんで、1年生からしゃべっているから、こういうのは絶対楽しめると思うので、その方法さえ、さっきの民間を活用とおっしゃっていたのと一緒に、(京橋地域活性化機構を)利用してくれたら、何ぼでも子どもの場とかで告知とかもしますから、チラシをいただけたら配りますよ。

【三井課長】

ありがとうございます。

【江川副議長】

多分、行けたら、うちの子も3人行かせたいんで。

【三井課長】

ありがとうございます。

【田矢委員】

ええやん。これ、うちも知っとなら、行かせたいですよ。僕、中学校のこと知らなかったから、行かさへんけれども、うち、もらったら行かせますよ。英語という、こういう機会を与えてもらっているので、行かせるけれども、知らなかったから、さっき課長がおっしゃったように、学校で一回やってみて、それでプリントを配って、区役所でやらすとか、多分、第3期教育振興基本計画に出ていたと思うんですけども、あれは子どもにチャンスを与えるということじゃないですか。第2期教育振興基本計画というのが、「自立」、「協働」、「創造」というのを基本にしながら、第3期基本計画をやるということだったので、そのチャンスを与えているということは非常にいいことだと思っておりますけれども、先ほど江川さんもおっしゃったけれども、周知ができていないから、親が知っとなら行かせる、子どもの尻をたたけるわけじゃないですか。子どもは子どもだけで聞いて、ふんふんふんで多分終わると思っておりますよ。でも、まず学校でやることによって、例えばオーストラリアから大阪市の事業で学校に来ますと。そうしたら、学校に連れてきますからね。子どもらはものすごい興味を持つんですよ。そしたら、よそのクラスからも寄ってくるし、そういう興味があるので、やっぱり学校で一回やってみて寄せるとか、そしたら区役所でやんのやったら、外国人が来るから、みんなおいでという周知の方法と、親に周知しないといけませんね、親が行けと言うんだから。そういうことをもう少し、それをどないしてするかというたら、民間の協力というのも必要でしょうし、PTAを使ってもらってもいいと思いますし、子どもらもっと来さしなさいとか、そういうのをやれば、もっとよくなるんじゃないかと思っておりますけれどもね。

【三井課長】

ありがとうございます。

【辻上委員】

すごくもったいない気がして、おっしゃったように、中学生の子どもも尻をたたいて行かせたいとおっしゃっていたけれども、小学生の場合、特に親が引っ張って参加させると思っておりますけれども、中学生の場合って、やっぱり友達同士が誘い合って行くという確率が高いと思うので、わざわざ土曜日のこの時間をとって、みんなで誘い合わせて、待ち合わせて行くというよりも、学校での延長で、放課後の例えば4時から6時やったら難しいかな、もっと小刻みにしてもらって、3時間とかでもないけれども、1時間であるとか1時間半でもいいので、放課後、5時間で終わる日だったら2時半ぐらいに終わると思うので、3時から4時半とかでやっていただいたらいいのになと思います。

【三井課長】

ありがとうございます。

【田矢委員】

議長、いいですか。

【田中議長】

はい。

【田矢委員】

これ、小学生の場合は、もっと興味を持たそうと思ったら、保護者と一緒に来さすとなると、保護者も小学校ぐらいの英語やったら、一緒に話せると思うじゃないですか。そしたら、子どもが興味を持つから、

一緒に来れんねんというので、全員が全員来なくても、来れる人だけでもいいじゃないですか。それは結構、子どもが興味を持つんじゃないかと思えますけれどもね。

【三井課長】

ありがとうございます。

【林田区長】

今回、保護者の方、あんまり来てなかった。

【三井課長】

見には何人か。

【田矢委員】

一緒に入れてやったら。

【林田区長】

私も、この小学生向けのこれは今年度初めてなので、その様子も当然、課長とかも見ていたんですけども、やっぱり小学生はいわゆる授業というより楽しむという導入部分なので、少人数で留学生の方が3対1ぐらいで、何かいろいろ話をするとということで、非常に何か楽しい感じでやっていて、非常に導入としてはええんかなと思いました。保護者の方も何人か来られていますし、確かに30人はちょっと少ないです。もっと周知の仕方を工夫して、これはかなり、単発とか、その日だけということもありますので、来てもらえるのかなと思っていますし、意義あるかなと思います。

中学生のことについては、やっぱり楽しむということと、英対話力ということで、英語力というのが両方があるんで、やっぱり参加してくる生徒さんもすごくレベルが高い子から、ちょっと楽しもうと思ってくる（子までいる）。それもなおかつ学校単位じゃないので、ちょっと難しかった面があるのかなと。そういうことと言えば、もう学校ごとであるとか、去年までやっていたWeb交流は、一方で同年代の子と交流して、会話しながら楽しむというか、交流するという、そういう視点だったので、むしろそういう部分がええんかもしれんかなと思っていますので、その辺、また来年度に向けて、この中学生向けのやつは、ちょっと改善をせなあかんのかなと思っています。2のところ、また説明があるかなと思いますけれども。

【玉川委員】

例えば、小学生はまだ初めてなんだけれども、中学生なんかもこの区役所の中で机を並べてやる、そういうような講座じゃなしに、例えば、10月6日はどないなったのか、知りませんが、食文化なんちゅうテーマでやるんだったら、例えばどこかで本当に食事をしながら、その食事に関連してのディスカスをするとか、そういうような場所を考えてやるとか、さっき言われたように、わざわざ土曜日に出て行くんだったら、区役所じゃなしに、そういうようなところでやるとか、そういう企画というのも必要なんじゃないかなと。やっぱり出て行くからには、それなりのプラスアルファ的な、そういうようなものがあたら、皆さん、行けるんじゃないかなという、そういう感じがあります。だから、ある意味、場所、日、時間、そういうようなものが、ちょっと企画倒れになっちゃったんかなという感じはするんですけども。

【三井課長】

ありがとうございます。

確かに先ほどもご指摘がありましたように、区役所にというのはハードルも高いかもしれませんが、6日のときは、主催者が海外のおやつをいろいろ用意して、注文表のようなもの、写真と物の説明を簡単に入れて、そこで注文をする練習。注文したら、留学生がその注文されたものを持って行って味わうというような形だったんですけれども、確かにプログラムとしては、どこかへ行ってに近いようなことをやっているかもしれませんが、場所が区役所だったら、ちょっと行こうというのもなかなかないかもしれませんが、そういったところから、来てもらえるようなしつらえを考えたいと思います。ありがとうございます。

【田中議長】

ありがとうございます。

ほかのテーマに関してはいいですか。方向性を聞いてからでも結構ですけれども。

【辻上委員】

小学生やる気アップ学習支援事業なんですけれども、区内9小学校で総参加者が253名とあるんですが、これは学校によって偏りとかはあったんでしょうか、そういうのはなかったんですか。

【三井課長】

学校ですか。すみません、何人という数字がすぐに出てこなくて申しわけないんですけれども、多少学校によって対象が3年生にしているところと、3、4年のところとありまして、人数的には30人ぐらいのところから、少し少ない10人ぐらいのところもありました。多少学校によって、人数にはばらつきはあります。

【辻上委員】

ありがとうございます。

【田中議長】

ほか、ございませんか。

そうしましたら、議題(2)の方向性について、最後、ご説明をいただいて、また……。

【林田区長】

ちょっとその前に、若干補足だけさせていただきますと、中高連携、この間、いろいろ取り組めないかと、この区政会議の中でもご意見をいただいて、ここに挙げておりますけれども、正直、出前授業というのは、基本的にはどこの中学、高校でもできるといえばできるんですけれども、なかなか今まで、区内の中学校で、区内の高校を必ず来てもらうようにしていたかということ、そこまではしておらなかったと。そういうことで、中学校にも高校にも働きかけて、できるだけやっぱりほかの私立を呼ぶよりも、区内の学校を呼んでくださいよということで、今年度なり来年度でそういう形をとっていかうということで進んできています。

それと、高校が中学校への参加とか、また高校の場合、中学校に限らず、まさに桜宮高校に代表されるように、この地域に体育祭を公開するとか、ボランティアで地域に行くとか、一番積極的にやってくれてはりますので、そういう高校の生徒の、また教育拠点としての力を区内にいろいろと発揮してもらおうということで、今後、引き続き、例えば東高校でも区民まつりに出たり、都島工業もこの橋づくりだけじゃな

くて、もうちょっと広げるということで、取組を進め出していますので、また今年、これだけ出たということにもなっていませんけれども、引き続き働きかけていきたいというのと、ここで括弧書きで書いております市音楽団による中学生の吹奏楽指導の発表会における中高連携ということで、これも今年度新たに取組むということで進めています5中学の吹奏楽、また合唱に対して、市音楽団が指導するという形で予算確保して、進み出しています。実際の指導は、まだ正直言ってできてない。事業者選定が年度当初で時間がかかりましたので、スタートが若干おくらしているということがありますけれども、まずは中学生にそういう音楽団の専門家の指導をするということで、また発表会についても、今年度中にできるか、来年度になるか。これは単年度じゃなくて、2年ぐらいかけてやっていきたいと思っていますので、その発表会が基本的に中学生の吹奏楽なので、中学校を集めてということなんですけれども、場所とか日とか、かなり調整せなあきませんので、その調整の中ですけれども、何とかここで高校も参加してもらえるようなことがでけへんかなというのを、今思っていますので、今年度は無理かもしれませんが、来年度も含めて、これはちょっと考えていきたいということで、あえて括弧書きで書かせていただいているところです。

【田中議長】

ありがとうございます。

もう一点だけ補足させてもらえば、PTAも今まで、高校さんとはなかなか接点がなかったというのも正直ありまして、今年度からは一応区内のPTAでやっている情報交換会、それからスポーツ大会も高校さんにもお声がけさせていただいて、今年度は都工さんはスポーツ大会も参加します。そういった形で、保護者ともどもその辺の連携を図りながら、最終的にはやっぱり子どもらのバックアップという形でうまく連携できればいいなと思っていますので、その辺また協力しながらやっていければなと思っています。

そうしましたら、議題(2)の平成31(2019)年度事業の方向性について、ご説明をお願いします。

【三井課長】

それでは、資料2を説明させていただきます。

31年度の事業の方向性につきまして、まず30年度事業の課題と改善策ということで、列举しております。

グローバル人材育成事業、こちらは、先ほどいろんなご意見をいただきまして、その点を踏まえてと考えておりますけれども、現状、ここに書いておりますような、やはり応募人数、参加者が少ないという部分で、今回、英語力の向上も一つのポイントではあったんですけれども、連続5回、5回だけの講座では、英語力の大きな向上は見込めないという点は課題としてございます。

あと、原因に挙げています、イングリッシュ・デイと同日となったということ、あと中学生の場合は、土日に5日来ていただくというのは、なかなか難しいという部分もございました。

改善策につきましては、皆様からいただきましたご意見も含めまして、英語体験活動については、参加者からは好評をいただいているんですけれども、ほかの事業の動向も見ながら、開催日だったり、開催のやり方、その辺のPRについても検討していきたいと思っております。

中学生対象のものについては、日程ですとか、先ほどご意見をいただきました時間、やり方についても検討させていただきまして、英語力の向上というのは5回ではなかなか厳しい部分もありますので、学校

単位、Web交流で同世代の子たちと交流するということに重点を置いて実施していければと考えてございます。

あと、小学生のやる気アップ学習支援事業ですけれども、参加した児童には高い事業効果が認められると書いておりますけれども、その下に少し成果として書いております、学習意欲が向上した児童の割合、29年度で8割近くございました。

ただ、真に学習支援を必要とする児童に対する支援になっているかという部分が不明という点もありますので、対象をこの事業の場合には絞ることが困難だったんですけれども、対象を絞っていったら、真に必要な層に対する学習支援というのにも必要じゃないかと思っております。

あと、夏季休業期間、短くなっていましたり、閉庁日もありますので、日程の調整も困難化している部分もございます。

やる気アップにつきましては希望制で、親御さんが子どもに行きやと言ってくださると、参加につながるんですけれども、私も見学に行きまして、来ている子というのは、結構真面目な感じがするなという部分と、学校の先生も見学に来られているところもありましたので、先生に聞きましたら、学力のトップレベルはさすがにいないんですけれども、まんべんなく参加されているということを知りました。後ほど少し貧困対策という部分も状況なり対策が必要だという部分もご説明させていただきたいんですけれども、子どもへの期待が低い家庭とか、学力等に関心がない家庭というのは、こういった希望制のところへは、なかなか応募されない傾向があるかと思っておりますので、真に学習支援を必要とする児童が参加できるような実施方法も検討していきたいと考えております。

小学生運動能力向上支援事業につきましては、スポーツトレーナーの派遣について、教員に対する講習は非常に好評だったんですけれども、児童の運動能力、何回か指導した結果、すぐに体力テストで上がると、そういった目に見えた効果というのは出てこないところなんですけれども、アンケートでは29年度、その効果があったという回答は小学校からは7割弱いただいているところではございます。

あと、桜宮高校と小学校の交流事業、こちらも小学校からの手挙げ方式ではありますけれども、好評のため継続していきたいと思っております。

これも小学校の校長先生にもお集まりいただいて、その場で今年度事業、来年度事業に求めるものとか、ご意見も伺っていたんですけれども、これが6回の開催なんですけれども、6回で日程調整というのが、通常の学校授業、体育授業を潰さないといけないので、なかなか厳しいなというご意見がございました。あと、単発でやるんじゃなくて、連続してやったほうが効果があるというご意見もあったんですけれども、それも3回ぐらい連続でやったらいいんじゃないかというご意見、また改善策のところにも少し書いておりますけれども、トップアスリートとか、そういった有名な方に来ていただくと、子どもたちの目が輝くということもご意見としていただきましたので、そういったところ、全く区の事業でしたり、区役所で支援して各校に呼べるような形というのをつくっていければなと思っております。

次のページに、その他事業（継続予定）ということで、スクールソーシャルワーカー、民間事業者を活用とした中学生を対象とした課外授業、発達障がいサポート事業ですとか、学力向上支援サポート事業、この辺のところはもちろん継続してと考えてございます。

こどもの貧困対策についてと次の項目を立てておりますけれども、28年度に子どもの生活に関する実態調査を行いまして、これが大阪府と市で子どもたちの生活実態を調査して、得られた結果から施策を検討するという目的で実施したものですけれども、簡単にその下に図で書いておりまして、その実態調査のスキームと書いていますけれども、まずは物的資源、現金やサービスと例もありますけれども、そういった物的なところが欠けていないかどうかという部分。

ソーシャルキャピタルと書いていますけれども、つながりとか友人との関係、学校であったり、そういった社会的なつながりというのがあるかどうか。

あとはヒューマンキャピタルということで、教育レベル、雇用の可能性とか書いていますけれども、教育レベルと将来の貧困というのが相関関係があるというデータもありますので、そういった人的な資源をかけて学習はしっかりサポートしていくと、将来、これについても好循環が生まれて、貧困の連鎖を断ち切ることができるんじゃないかということが言われているところでございます。

次のページに、調査から分かる都島区の特徴としまして、数字をざっと並べているところなんですけれども、調査の中で教育関連と思われる項目について抽出している部分ですけれども、都島区全体で見ますと、大阪市の平均値よりもおおむね良好かなと思ってございます。物的資源、ソーシャルキャピタル、ヒューマンキャピタルとか、その他、学校の勉強がわからないという率も、区全体で言いますと、大阪市平均よりもわからないという子の率が少ない、いい結果となっているかと思えます。

ただ、地域による差が大きいということで、結構幅がありまして、その下に書いています物的（資源）以下もですね、低いところはかなり少ないんですけれども、高いところ、下の学習支援にしましても33.9%とか、率の高いところはかなり高いという傾向が出ておりますので、これまで全地域を対象に支援はしておりまして、先ほどの継続として項目を挙げていました学力向上支援サポート、学校の時間内に学びサポートということで支援する事業もありますけれども、そういった各校を支援する体制も若干充実させながら、特にやはり厳しいところに特化した支援策というのが必要なんじゃないかなと考えておりまして、31年度につきましては、そういった全体としても一定拡充しながら、特に厳しいところについて重点的に事業を打って、ひいては全体としても向上していくという事業でやっていきたいなと考えているところでございます。

以上でございます。

【田中議長】

ありがとうございます。

それでは、ご質問、ご意見等、ございますでしょうか。

【玉川委員】

このソーシャルキャピタル、子どもの将来に期待していないというのが、都島区が16.2、大阪市全体で13.3、何か物すごいわびしいね。親がですよ。

【三井課長】

そうですね。

【玉川委員】

寂しいね。

【林田区長】

これは何か逆ですね、全市平均よりもちょっとよくない。

【玉川委員】

そんな無関心なのかな。無関心というよりも、諦めよる。

【小田切委員】

随分幅がありますよね、12.5から28.6。

【三井課長】

そうですね。

【小田切委員】

これは具体的にはどういうことなんですか、将来に期待していないというのは。

【三井課長】

進学先でしたり、あと今後、社会に出て活躍してというのをサポートするしないとか、そういった点になってこようかと思うんですけれども、先ほどの英語の関係にしましても、例えば夏のやる気アップとか、にしても、親が子どもに行きやと言ったら、行ったりとか、いろいろ親は基本的にサポートしていくことが多いかなと思うんですけれども、あんまりそういうところに力が入っていないという方がいらっしゃるかなと考えているんですけれども。

【田中議長】

かかわりたくないというのもあるしね。

【三井課長】

あんまり関心だったり、力が入っていないという方が期待していないという、余り気にしていないというところなのかもしれませんけれども、なかなか、こんな率で出てくるというのは驚きのところかもしれませんけれども。

【辻上委員】

今のところなんですけれども、どういう方を対象に、どういう感じでの質問というか、アンケートをとられたんですか。

【三井課長】

アンケートは、基本的には全員の方に回答していただくということで、基本的には小学校5年生と中学校2年生、(資料2に)書いているんですけれども、調査方法のところ、先ほどの資料2の2ページ目に書いてあるんですけれども、市内の調査対象の世帯というのは、小学校5年生と中2の全世帯なんですけれども、学校とかを通じて調査票を配って、回答をしてということで……。

【辻上委員】

封筒に入れて、その子に持って帰らせて、封をして返すみたいなの。

【三井課長】

そうですね。誰かわからない、名前も書かないんで、正直に書いて出してくださいねということで、お

配りして封をして、学校で回収すると。

【辻上委員】

質問内容なんですけれども、これと同じような感じで作されているのか、違う内容で作されているのか。

【三井課長】

質問内容ですか。

【辻上委員】

経済的理由で子どもを学習塾に通わせることができなかった。1、2、3段階みたいなのがあって、「はい」、「いいえ」があって、「そう思ったことがある」とかいうのが真ん中にあるような感じなのか、もっと質問文章がつながって書いているのか。

【三井課長】

文章はある程度、もうちょっと書かれたりしているんですけども……。

【林田区長】

これは28年、一昨年に全市で、また府全体でもやって、今、申しあげたような区内でも小学校5年生の全児童保護者、中学校2年生の全児童保護者にお渡しして、先ほど言うたような回収をして……。

【辻上委員】

内容は同じですか。

【林田区長】

同じですね。

【辻上委員】

多分、そのときの区政会議にも私、出席していて、貧困の度合いを調査するのに、お金の面で病院に行くことを我慢したことがありますとか、そういうのがあって、誰でも我慢したことがあるやん、そんなんって思うよというお話をさせてもらったんですけども、内容が一緒やったということですね。

【林田区長】

そうです。その調査の結果の一部を抜粋しているんですね。ですから、おっしゃるように、いろんな要素があるので、絶対にと……。

【辻上委員】

考え方ですよ。

【林田区長】

だから、今の期待しているというのも、期待レベルが高いのかもしれませんが。

【辻上委員】

将来のことを不安やなと思っていたら、あんまり期待していないになるのかなって。

【林田区長】

ということはあり得るんですけども、一般的に言うたら、やっぱり期待していないというのが高いというのはよくないかなと思いますけれどもね。

【辻上委員】

じゃ、あんまりアンケートはあれかな、関係ないかなってような感じが。「子どもの将来が不安ですか」と聞かれたら、「はい、不安です」と私は答えます、やっぱり。

【江川副議長】

これ、高いほうがいいということかもしれないですね、そのとり方やったら。

【辻上委員】

そう、関心があるという意味で。

【三井課長】

質問と申しますか、アンケートの現物がここにあるんですけども、もうそのまま、その将来に期待しているかどうかは、あなたのお子さんの将来に期待していますか、当てはまる番号1つに丸をつけてください、「とても期待している」、「期待している」、「余り期待していない」、「期待していない」。

【辻上委員】

私は、「余り期待していない」になると思います。

【田中議長】

大体こういうアンケートって、抽象的なんですよ。何に期待しているわけでもなく、ざっくり言われたら。

【三井課長】

そうですね。この辺の項目は、あなたのお子さんを信頼していますかとか、そういったところもありますので、そこはざっくりしたところはあるかもないですね。

【田中議長】

とり方次第でどっちにでも転がる、独特な昔からのアンケート。

【辻上委員】

これを見ただけではわからないですね、やっぱり。

【林田区長】

ただ、我々が課題やなと思っていますのは、この下の方の地域による差が大きいというところにして、やはり経済的理由で子どもを学習塾に通わせることができなかったということのお答え、平均が10%ですけども、経済的理由で通わせることができなかったと答えている。これ、要は地域ですから、学校ごとの単位になっていますので、6.7%しかなかった地域と、2割近い、学習塾に通わせることができなかったという、やっぱりこの区内でもそれだけ違いがあるので、そういうこと言えば、重点的に学力向上やったら学力向上の取組をする必要があるかなと。学校の勉強がわからないというのも3.3%と19.2%で、ちょっと多い。これは回答されている方の人数が非常にばらつきがあるので、一概には比較できないんですけども、やっぱり全体としては課題があるかなと。

【辻上委員】

分母が違くと、全然違うので。

【林田区長】

はい。そういう意味で、こういう地域に特化した支援策というのも考えていく必要があるのかなと思います。

ます。

【小田切委員】

よろしいですか。これ、小学校と中学校を一緒にした値ですよ。
小学校と中学校でどう違うのか。

【三井課長】

小学校の数値で挙げております。

【小田切委員】

小学校だけですか。

【三井課長】

はい。

【小田切委員】

小学生で学習塾に行っている割合というのは、今どうなんですか。みんな行っているんですか。

【三井課長】

すみません、ちょっとすぐに数字が出なくて申しわけないんですけども、各小学校の校長さんともいろいろ話をさせていただいた中では、結構な率で、特に小学校の五、六年とか高学年になっていくと、そこそこの割合で塾に通っている方が多いようなんですけれども、特に地域に、校区内に塾がなくて行っていない学校は1割も満たないと、すごく低いということは言われていますので、大体五、六年になりますと、結構な割合で塾などは行かれていますよね。

逆に言いますと、そういった特に低いというところでは、地域、校区内に塾もなくて1割に満たないというのは、かなり学習環境には差があるなと感じていまして、そういったところでは、やっぱり支援があったほうがいいのかなと思うんですけども。

【小田切委員】

すみません、私ははるか昔に子育てが終わっているものですから、今はもう小学生でも、高学年の子は塾に行かないとあかんのですか。

【田中議長】

結構。学校で習わないことが試験に出るので、はっきり言って今の時代は。昔は、学校で習ったことをきちんと覚えておれば、テストで点をとれる。そんな時代はなくなっちゃいましたね。

【辻上委員】

これとずれちゃうんですけども、今、塾の質問があったんですが、今度、中学校に上がる、今の6年生の親の会話の話を聞いて、ちょっとぞっとしたんですけども、どこどこ中学校は課題を、宿題とかをいっぱい出されて厳しいので、先生も厳しく指導されるので行かせたくない。普通、私らの時代やったら、勉強させてくれんねや、厳しく指導してるんや、じゃ、行かせたいと思うんですが、逆なんですって。じゃ、勉強とかはどうするのって聞いたら、勉強は塾ですもんやからって。中学校は楽しく生活をさせてもらうところなので、中学校では厳しくしてほしくないという会話がなされているそうです。そんな時代です。だから塾で勉強して、学校は楽しく。

【林田区長】

あまり一般的でないと思いたいんですけれども。

【辻上委員】

そういう話を保護者でしているっていうことが、怖いっていう。

【田矢委員】

でも、それは一部でしょうね。通常は学校で勉強しろと言うのが当たり前なんで。

【辻上委員】

それが広まっていくでしょう。

【田中議長】

あくまで補助的なものが本来塾であったのが、今、現実的に主になってしまっているのと、例えば学校においても、今宿題の話が出ましたけれども、僕も子どもらも疑問を思ったのは、クラスによって宿題の出方が違う。特に中3で、夏休みで、何でこのクラスはこんないっぱい出て、ほかはないのとか、ちょっとしたことかもしれんけれども、それは確かに学校によって、担任によってというのも、若干ある部分の反動が、逆に塾での本当の意味での学力じゃなくて、試験でテストの点数を上げるための塾としての役割の毛色が強くなり過ぎている結果じゃないかなと。本来、学校という部分は学びの場であって、学力は学ぶ力をつけるものであって、テストの点をとるためのものじゃないという認識が、なかなかやっぱり社会も含めて周知というか、保護者も含めて認知できていないがために、いろんな子どもらも出ているんやろうなというのが本音です。当然、それがいきなりどうこうということもないし、それがどうやねんと、今の時代やと言われたら、それまでなのかもしれないですけども、だからこそ改めて、やっぱり子どもらの学力、要するに教育という部分は、各ご家庭に任せっきり、責任は当然あるかと思うんですけども、やっぱり学校、地域、行政を含めて見直しをかけるといいますか、きちんと見てあげないと、本来、真つすぐいくべき子どもらが外れていくケースもあるのかなというのが、ここ数年じゃないでしょうね、積み重ねで来ているのかなって、我が子も含めて思ったりします。いろんな施策を有効に打てるように、本当に地域を含め学校、保護者、三位一体になって、これまでは学校がメイン、学校を中心にやったところから、一つはやっぱり子ども中心に学校、地域、保護者が連携をとるべきじゃないのかなと。

本当はもう一個、後でちょっと議長でありながら言わせていただこうと思っていたんですけども、そういう意味で、たまたま今年、PTAの立場で日本PTAの全国大会に行った中で、コミュニティ・スクールの事例発表がありました。大阪市は学校協議会という形で、市の条例に基づいて各学校に協議会を置いています。でも、今、文科省はコミュニティ・スクールを努力義務として、各市町村が何かされています。コミュニティ・スクールの場合は、学校運営協議会という形の中で、学校協議会と違って、各代表者だけが集まるんじゃなくて、地域の一般の人、それから学校の一般教師も含めて学校運営、授業に対して意見を交換しながら、実際に授業をどうやって進めていこうという、あくまでも子どもを中心として学校、地域が協力しながら推し進めていると僕は捉えています。

その中で、今の大阪市においては、学校協議会、学校を評価するための組織でしかないと思っています。そういった中のことも少しずつ見直しを、有意義に動いている学校も当然あると思うんですよ。非常に連

携されていますけれども、学校によっては、やっぱり学校が今年度の目標を立てて、それに対して学校自身が評価したものを協議会の中で承認してもらおうと言ったら変ですけども、そういった形で進めているのが主かなと。本来の子どもというものが、ちょっと置き去りになりかかっている面もあったりするんじゃないかなというのを、そのコミュニティ・スクールという形で動いている事例の中では、その事例においては、村の中での学校なんで、よりその辺のコミュニケーションというのは近いものだと思うので、それがすぐさま大阪市内の学校で通用するかというと、またそれは別やと思いますけれども、考え方の一つとして、そういった部分、どこを中心に物事を考えて進めるんですかというのは、教育という部分においては、もう一度見直す部分でもあるのかなとふと思ったので、ちょっと議題から外れたかもしれませんが、また参考になればと思います。

【林田区長】

今おっしゃっていただいた学校協議会と学校運営協議会との関係というか、違いについては、これは確かに文科省で言うている制度との整合性の問題ですので、教育委員会でもどう整理すんねんという議論が始まっています。区長会にも、その辺で議論を一緒にというようなことになってきています。

ただ、共通する部分はかなりあるんですね。評価というお話がありましたけれども、当然、学校としてこうやっていきますよという運営に関する計画を地域にも保護者の方にもお示しして、それについてご意見をいただくということ言えば、地域なり保護者の方が学校にご意見を言うという枠組みとしては同じ部分はあるかと思うんです。一方で、コミュニティ・スクールというのは、もっと何かさらに学校運営協議会の権限が、予算であるとか、人事であるとか、そういうのにもかかわってくると。

ただ、そういう枠組みに今、大阪市の教育委員会の学校運営のやり方が予算配分を含めてなっていないので、それはどうできるのか、またそうすべきなのかどうなのかというのは、これから議論していくことですので、おっしゃるように、ちょっと位置づけなんか内容が違う部分がありますので、また研究もさせていただいて、教育委員会でもある程度また議論とか方向性が出てきたら、またここでもご報告なりご説明させていただきたいと思います。

【日野委員】

いいですか。この小学生やる気アップ学習支援事業なんですけれども、参加した児童には、高い事業効果が認められるが、真に学習支援を必要とする児童に対する支援になり得ているかが不明で、改善策は真に学習支援を必要とする児童が参加できるよう、実施方法なども再検討ということですけども、これは希望の子を応募制にしているということですが、手紙か何かを出して、それで親が返事を書いて、応募するという感じですか。

【三井課長】

やる気アップは、学校で案内を配っていただいて、それを持って帰っていただいて、親の方に申し込みを書いていただいて、参加いただくという形ですね。

【日野委員】

真に学習支援を必要とする児童は割と含まれないというか、参加できない可能性が高くなっているんですね、実態としては。

【三井課長】

できないといえますか、先ほど貧困対策をデータで出していましたような、子どもに期待してないとか、子どもにそういうところに行かせようと思わない家庭の方も結構いらっしやいまして、それは親の後押しがなかったら、子どもはもちろん参加しないので、具体的には学校ですと、担任の先生が、この子ちょっと勉強がしんどかったり、なかなか何をやるにしても気持ちが乗ってけえへんなどという子がいたら、そこにプッシュするような形で、紙とか申し込みみたいなものを渡してもらって、そういった子に、学校でしたら、夏休みにわざわざ行くというよりも、ふだん学校に来ているのであれば、親の方に一筆申し込みを書いていただいたら、学校の後、ちょっと放課後にフォローするような形で支援をして、今、少人数で学習を支援すれば、学校の授業はどんどん進んでいくので、わからないところとか、学年をちょっとさかのぼったりして丁寧に指導すると、ちょっとわかって、そこでやる気とか、勉強だけじゃなしに、ほかのことにもやる気を持ってもらえたら、ちょっとはいい循環になるんじゃないかなと思ったりしています。

【日野委員】

何か親が子どもに期待しないから行かせないというよりも、もしかしたら、手紙をちゃんと見れてなくて、あるいは子どもが渡してなくて、あるいは渡していてももう積みっ放しでちゃんと見れてなくて、子どもに持って行かすことができないという可能性ってめちゃくちゃあり得るんですよ。それだったら、担任の先生がその子どものそれぞれの学習能力って一番わかっているじゃないですか。

【三井課長】

そうですね。

【日野委員】

やっぱり直接電話で、おたくのお子さんはこうこうこんな状態なので、今度いついつこんなやりますので、参加されたらどうですかと直接言われたら、参加することってぐんと増えると思うんですね。誰も自分の子どもをそういう意味で期待、期待ってするからいいのか悪いのかもわからないワードなので、でも、自分の子どもの学習能力が上がってほしいと思うのは、どの親もきっとほとんど思うことだと思うので、本当に忙しくて、手紙を全然見られへん親って、結構おるんですよ。それが育児放棄かと言ったら、決してそうじゃなくて、結構いっぱい親も多いので、そこは本当に先生、面倒かもしれないんですけども、あるいは懇談のときに、もしその日程がわかっているのであれば、中学校なんか、夏休みに入る前に懇談をやって、夏休みに入って、学習が追いついていない子は、いついつからやるからおいでと言われたら、もうその場で親と子も、あっ、よろしくお願ひしますとあって、それで参加できることになるので、そういった親と顔を合わすタイミングのときに日程がわかっているのであれば、一々電話をかけて言う時間も要らないですし、もう日程がわかっているのであれば、電話する時間は先生の仕事を増やしてしまいますけれども、そこは丁寧にその親にちゃんと声をかけて、伸ばしてあげるように促してあげるほうがいいんじゃないかなと思うんですけども。

【三井課長】

ありがとうございます。

先ほどのグローバルにしてもそうでしたし、今、ご意見をいただいた点についても、確かにこちらから

のPRの仕方、手段がちょっと同じような形になっていたかもしれませんが、確かにご意見をいただきましたような方法を検討して、しっかり届くような形で……。

【日野委員】

しっかり届けてほしい。本当に手紙を見れない親が多いんですよ、いっぱいいっぱいなんですよ。だからって、決して子どもを放棄しているのでは全くないんですよ。

【三井課長】

やり方として、より参加しやすいように、夏休みにわざわざよりも、先ほどのグローバルの件でもありましたけれども、ちょっと放課後に短い時間でもという、セットでやりますと、年間を通じてとか、長い期間でしっかりやっていければなと思います。ありがとうございます。

【日野委員】

お願いします。

【田中議長】

ぜひ、その周知に関しては、それこそそこがコミュニケーションの第一歩やと思うので、SNS、ホームページに上げていますで決して終わらないように、あくまでもバックアップ的にホームページ、SNSを活用いただいて、きっかけはよろしく願いできればなと思います。

【三井課長】

ありがとうございます。

【田中議長】

それでは、最後に、ほかに。今までの意見の中の追加でもいいですし、ほかに区内の教育の面であったりとか、子どもたちを取り巻く環境の面であったりとか、ご意見、ご質問等があれば、ぜひこの機会に。

【田矢委員】

いいですか。皆さん、当然ご存じだと思いますけれども、なぜ塾へ行かすかという、社会現象で少子高齢化というのがあって、働く労働人口が減ってくるし、女性の高学歴化によって社会進出をすることによって、家にいなくなって、働きに出るという方が当然多くなっているわけじゃないですか。その中で、親が今まで専業主婦というのが戦後ずっとあったと思うんですけれども、女性は働きに出ていないので、子どもを見る面倒があって、いなくっても、じいちゃん、ばあちゃんが一緒に住んでいるからという大家族から、今は核家族になっているので、面倒を見る人がいない。だから区役所がこうやってやられているけれども、僕はもう十分やられていると思いますよ。

ただ、その内容で周知の問題とかってあると思うんですけれども、そうしたら国は今、何をやっているかというたら、例えば出産した子どもに対しては、1年から1年半、1年半を3年間補助しましょうというふうにお金を出してあげるから、子どもの面倒を見てくださいよと。小学校の就学児童に対しては、今、1万円の負担とか出しているじゃないですか。その幅をもう少し上げてあげる。これは区だけじゃなくて、国の予算をとることになると思うんですけれども、だから、そういうことでもうちょっと言ってもらえばいいかなというところですよ。私としたら、そういう小学生から中学生の義務教育の子どもたちに、もう少し国からのお金を補助してあげるということが一つあるかなと思うんですよ。塾代ですよ、結局。

行けるようにしてあげるとかね。

これは今、パブリックにされるということは、税金から出されているから、それをもう少し大きくしてあげたら、来れる人も多んじゃないか。そうなる、周知の問題だけじゃないですか、どうやってやるかという。そこを考えているから、ここで話し合っているとは思いますが、結局、子どもに関心のない親、先ほどもおっしゃったけれども、ないとは思いますが、私、こっただけ働いているからしんどいというので、それが2馬力であればいいけれども、1馬力であったら、その分もっとしんどいというのもあるから、そういう補助も当然必要でしょうし、それは地域で今、どうやって面倒を見てあげるのかというので、話し合いをなされていると思うんですが、話し合いをしても、結局、話し合うだけで終わってしまうといけないので、前向きにどうやってやるかという具体案ですね。個々に出ていると思うんですが、例えば物を配るのやったら、僕ら、子ども食堂をやっているから配りますわ、そういうお手伝いをしてくださるのやったら、いいじゃないですか。そういうところをもう少し早く活用していく、早く動けるといって、迅速さが少しいただければいいかなというふうに思います。

【三井課長】

ありがとうございます。

【日野委員】

すみません、せっかく井戸議員がいらっしゃるので、お聞きしたいんですが、私、大阪は塾代助成金はすごいありがたい制度やと思っているんですが、1万円でも出していただけたら、本当にありがたいなという面もあるんですが、年収の低い家庭なんかは、もうちょっと増えたらありがたい人はいっぱいおるやろうなというのがあるんですが、ただ何か、この間、ちらっとだけ見たんですが、吉村市長が、成績によって学校の先生のボーナスを出すとか出せへんとかいうのを見たんですが、あれはちょっと私は基本的に、えっ、それはどうかなって。それで先生のモチベーションが上がるとは私は思えない考えなんですけれども、どんなあれでしたっけ。

【井戸議員】

塾代助成は大阪市単独の事業なので、国から補助金をもらっているわけじゃないので、金額的には、市議会の中での議論で、一時、もう少し大きな事業という話もあったんですが、どこか削らなアカン中で、ここを削れという形で、1万円でおおむね所得半分の世帯が、50%の世帯がもらえるような形ということと、あと学力については、ずっと最低レベルということで、今やっとなんとか、最下位からの脱出が見えてきたと。そこで学校の先生に頑張ってもらわなアカンということで、今までずっと最下位で、学校、いわゆる学力テストだけではないです、どこを見ても、かなり小中学校の先生の教え方に課題のある先生が、これは貧困が問題があるのかもしれないけれども、熱心な先生とそうでない先生があるから、結果を公平に判断する一つの指標として、成績と、学力テストを使うかどうかは別として、やっぱり学校の先生ですから、上手に教えてもらって、結果はやっぱり営業でもそうですけれども、売り上げを伸ばすと。ただ、公務員にそういうのを持っていくのがいいのかということもありますけれども、実際、実社会に出れば、子どもたちはやっぱりそれなりの学力を求められるわけですから、最低限の学力が今ついていない現状があるのであれば、学力テストだけではないですけれども、ボーナスどうのこうのじゃなくて、もともと学

校の先生の評価が5段階で評価されているんですけども、ほとんど5段階の4と3になっていると。要するに、頑張る先生も5をつけてもらっていないんですよ。頑張っていない先生は2とか1とかつけろというわけじゃなくて、まず学校の先生の評価をしっかりとする。その一つに学力テストを使うかどうかは別として、成績を上げた先生をきっちりと評価して、その評価がある程度将来的には、やっぱり学校の先生もいわゆる上に、教頭になっていなくても、いわゆる主任やったかな、主任という階級を設けることによって、いい先生をどんどん上に上げていくと。教頭になってほしいんですけども、教頭はいろいろ管理職やから、嫌やいう先生もおるんで、そんなんでも学力だけで評価するというわけじゃないですけども、一つやっぱり最低限やらなあかんのは、学力を上げるということで、全国でやる学力テストがいいのかどうかというのは、また議論しますけれども。

【日野委員】

それは、もう市議会で決まったんですか。

【林田区長】

まさにこれは議会での議論というのはもちろん重要ですけども、当然、教育委員会がありますから、教育委員会制度の中ですので、市長も入って、教育委員さんも参加された総合教育会議というのが今ありますので、その中でこの議論もされています。学力向上が重要やと、学力テスト（の結果）もアップさせるのは重要やというのは、教育委員さんも皆そうだと。ただ、それが今言うてはるような評価に直結できるかどうかというのは、これは制度的な制約もあるし、学力テスト（の結果）を使うよりも、例えば経年調査といって、毎年全学年やっている調査がありますから、そういうのを活用したほうがいいんじゃないかとか、制度的な枠組みとか利用とか、それはまさに教育委員会と市長のご提案と含めて議論をして、さあ、どういうふういつからできるかというのは今議論中というところです。

【日野委員】

わかりました。ありがとうございました。

【辻上委員】

さっきの塾の話にまた戻るんですけども、小学生、今5年生で塾に行っているのかみたいな話があったんですが、子どもの行き場が放課後になくなっていると。放課後の校庭開放がない、学校から帰る、両親とも家の人たちが働きに出ている子どもたちを1人で置いておくのは怖い。じゃ、何か習い事をさせようかとなったときに、勉強してほしいから、ゆとりのある人は塾に入れる、小学校4年で塾に入った、私立受験を勧められる、中学校は私立を受けるという方も増えてきています。あと、大阪府で私立中学校へ行く子の助成みたいなものも始まっていて、普通の公立中学校に行つて、塾に行かせてするんだつたら、私立でそのまま見てもらつて、学校に預けとつたら安心やわという家庭もやっぱりいてると思うんですね。

今、公立中学校では、以前から言っているように、クラブ活動の時間の短縮化があつたりだとか、クラブに入っていない子もすごく増えているという話を聞いているので、その子たちもやっぱり時間があるならば、うろうろされるぐらいなら、塾へ入れようと保護者はやっぱり思う。塾に入れているから、塾に行つているから勉強しているから安心して、私は働いといたらいいねんわと思つて放つておくと、子どもとのコミュニケーションがとれなくなる。そういうちぐはぐなやりとりがずっと続いているような気がして、

子どもはもう塾、親は働く。子どもって、絶対自分の悪いところを親に見せようとはしないので、たまに会うときはええ顔を見せる。懇談会とか学校から電話がかかってきたときに、えっ、うちの子はそんなことしませんというような保護者さんが増えてくると。ちょっとちぐはぐな感じがして、お金が要る、お金が要るから働く、子どもを見てやれない。このままいくと、小学校からやっぱり塾に入れて、私立中学校に入れてというルールに乗って行かすのが楽で安心なん違うかなという保護者が増えてくると違うかなと思って、地域の中学校がちょっと心配だなと思っています。

なので、やっぱり子どもの居場所、子ども食堂ってさっきも出ましたけれども、あれってすごい本当に、火曜日やったらカレーを食べに行っ、みんながいてるという安心感がある場所をもっとつくってあげて、もっとみんなに周知していけば、安心できるのかなと思ったりします。

【三井課長】

ありがとうございます。

子ども食堂の件につきましては、京橋地域活性化機構さんがやっていただいたり、中西金属工業さんがやっておられたり、以前には大東地域でもやろうとされていて、結局、今は継続できてないかもしれないんですけども、各地域でやられている部分とか、ほかの区でもサポートをしたりという部分はあるんですけども、今、うちの区で実施できてないところなんですけれども、その辺の居場所づくり、小学校でしたら、いきいきがあつたりもするんですけども、中学生に対しても何かそういった居場所だったり何だったりとか、その辺のところも考えていきたいなと思います。ありがとうございます。

【江川副議長】

ちょっとそれに関係することなんですけれども、まだお会いしていないんですけども、東都島小学校の校長先生が、南小学校のときに、そういう子ども食堂とか、その居場所とかをつくった事例があつて、今月のボランティア・市民活動センターの会議で登壇してお話しするんですけども、その人のやったやり方とか、一回聞いてみたら、何かお金をかけずにできることがあつたりとかするかもしれないんですけども、ご本人に私も会ってないんですけども、まだ。

【三井課長】

それは、いつ会われるんですか。

【江川副議長】

10月の金曜日ですね、十何日の。ボランティア・市民活動センターで。

【三井課長】

そうですか。

【江川副議長】

その情報も確認したいと思います。

【三井課長】

ありがとうございます。

【林田区長】

すみません、いろいろご議論いただいている中で、来年度の方向性という中で、まさに今出させていた

だいたこどもの貧困対策ということで、貧困対策という表現が適切かどうかというのはあるんですけども、一つはやはり学力向上、生活支援について、その地域差がやはり大きいので、要は学校を絞った形で取組を考えたほうがいいんじゃないかというのは、今考えているところです。それは、一つは小学生やる気アップ学習支援事業もここに書かせていただいているように、一定小学校3、4年生ということで、全校実施ということでやってきたんですけども、課題もあるということで、この全校実施を、学校を限定した地域に特化して絞り込んだ形で、なおかつ3、4年生というよりも、もうちょっと学年を3年から6年とか、そういうふうに広げて、ただし、学校数は1校とか2校とか非常に限定しますと。そのかわり、夏休みのこの5日間だけじゃなくて、1年間通じたような形で支援すると。そして、その子どもたちについては、先ほどご説明したように、担任なり学校が、この子は必要やねんというような子に声かけして、参加してもらうというような形に、この小学生やる気アップ学習支援事業は逆にちょっと縮小して、そういう形に変えたらどうかなというのが、今考えているところですので、当然、ほんならどこの学校にやるねんということにはなりませんけれども、やはり今申しあげたような地域の状況であったり、また校長先生のご意見を十分お聞きして、学校としてもやっぱりそういう取組をやろうと思っているんですというところにマッチすれば一番いいかなと思っていますので、そうご理解いただけたらと思います。

【田中議長】

貴重なご意見をありがとうございました。

第1回という中で、結構現実味のある意見が出たんじゃないかなと思っています。地域や私どもは、すぐに未来を担う子どもたちと、ある意味責任を押しつけている面もあったりするかなと思ったりしています。そういった会議もちょうど今週末、まちづくりセンターを中心に集まって、話し合いもされるようですけれども、大人たちが逆に大風呂敷を広げても、しょうがないと思っています。今、区長がおっしゃられたみたいに、ある点に絞って、深く取り組むべきところは取り組んでいかないと、広く浅くで何かやった感だけが残るような教育が一番結果としてはもったいないのかなと思う次第です。今後とも都島区を中心に、ますます子どもらにとっていい機会が与えられる教育部会でもあってほしいなと思っていますので、本日はさまざまなご意見をありがとうございました。

それでは、本日もご出席いただいています市会議員の井戸議員より、一言お願いいたします。

【井戸議員】

どうも皆様、遅くまでご苦労さまでした。貴重なご意見をありがとうございました。いろんなことをまた参考に、今後の議会での質疑とかやらせていただきます。

橋下市長になる前は中学校の給食もなく、またいろんな空調とか、そういったこともなかった中で、一応環境は取り組ませていただいて、塾代助成についても最初はなかなか利用されていなかった時代も実はあって、塾が1割出さなあかんということで、手を挙げない塾なんかが、特に大手さんとかは乗ってきてくれなかったのが、今は大分利用されているようになってきていますが、中学校の給食も怒られながら、何とかある程度定着してきた。(都島区でまだ導入されていないのは)あと1校だけですか。

だから、その中で出てきたのがこの貧困対策という形で、都島区はそんなに問題がない、そんなにというか、平均よりは課題が少ないと、おおむね良好ということでしたけれども、やっぱり課題がある学校が

あるのは我々もわかっていますので、重点的な取組を進めていくように、これは各学校の取組というか、教育委員会は基本的には、どの学校をどうせえとかいうのは我々は言えない立場なので、また学校が主体になって、教育委員会、学校、そして都島区できっちりと課題のある学校に取り組んでいただくということ、そのための予算ですね。いろんな予算を我々は見ている中で、教育という名前がついていても、例えば生涯学習とかやったら、大阪に唯一、全国のどこにもないような立派なクラフトパークいうて、陶芸とか、大人の生涯学習ですね。そんな施設があるのに、三十何億円やったかな、一方でそういう学校の教育の環境がおくれていた。生涯学習センターが5カ所もあって、これは教育じゃないですけども、男女共同参画とか、いろんな理由をつけた箱物がある中で、学校に関する予算が少なかったかなと思っておりますので、また決算委員会があるので、いろんな予算で回せられるものは、今度、予算化できるように、今の教育バウチャーも2万円、もし課題がある家庭だったら、出してもええんじゃないかという話も、ぜひどこかでさせていただけたらと思います。ありがとうございました。

【田中議長】

ありがとうございました。

これで本日予定しておりました議題につきましては、全て終了いたしました。皆様のおかげをもちまして、円滑に議事を進行させていただきました。改めまして、お礼を申し上げます。

それでは、事務局にお返しいたします。

【吉田課長代理】

田中議長、ありがとうございました。

本日は議長を初め、各委員の皆様方におかれましては、長時間ご議論賜りまして、まことにありがとうございました。

最後に、区長の林田より一言ご挨拶させていただきます。

【林田区長】

本日、まことにさまざまな積極的なご意見をいただきまして、ありがとうございます。その中でグローバル人材育成事業についても課題があり、来年度に向けてもちょっと変えていく、改善していく面があるんじゃないかといったこと。また、小学生やる気アップ学習支援事業についても特化した、学校を絞り込んだ形で取り組む必要があるのではないかといったこと。また、小学生の運動能力向上支援事業についても、アスリートの派遣というようなことも考えていきたいと思っています。

そのほか、また中高連携についても、まだまだ途上でございますけれども、いろいろご意見をいただきながら、よりよい事業に、また子どもたちのために取り組んでまいりたいと思いますので、今後ともよろしくお願い申しあげまして、終わりの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

【吉田課長代理】

それでは、これで平成30年度第1回教育部会を終了させていただきます。本日はまことにありがとうございました。